

見た目は似ていても…

フキノトウとフクジュソウ(有毒)、ハシリドコロ(有毒)



フキノトウ (アキタブキ)

苞には白い綿毛が密生しており、苞の中にはつぼみがたくさん詰まっています。



有毒

フクジュソウの若芽



有毒

ハシリドコロの若芽

芽に毛はほとんどなく、芽の中は葉が重なり合っています。



有毒

フクジュソウ (キンポウゲ科)

北海道、東北、関東などの山地に自生する多年草で、早春に新芽を出し、鮮黄色の花を付けるので、縁起の良い花としてお正月に飾られます。多くの園芸種があります。

新芽をフキノトウと間違えることがあります。植物全体に強心配糖体のシマリンやアドニトキシンを含有しており、誤食すると、おう吐、呼吸困難、心臓麻痺などの中毒症状を起こし、重症の場合には死亡することもあります。



有毒

ハシリドコロ (ナス科)

高さ30cmから60cm程度の多年草で、葉は長円形で先がとがっています。春、紅紫色の鐘の形の花が下向きに咲きます。果実は球形で、熟すと種子が散ります。

新芽をフキノトウやおオバギボウシなどの山菜と間違えることがあります。植物全体、特にその芽、葉にもスコポラミン、ヒヨスチアミンなどの副交感神経を麻ひさせるアルカロイドが含まれ、誤食すると、おう吐、けいれん、昏睡、呼吸停止などの中毒症状を起こします。